

## 2021 岡山のインバウンド観光動向

－ストーリー性の高いサステナブルな体験価値の提供を軸とした観光戦略の可能性－

### 【要旨】

#### I 全国・岡山の動向

- ・2021年の訪日外国人客数は前年比94%減、岡山県外国人延べ宿泊者数も前年比71%減となった。
- ・2020年の岡山県観光消費額単価によると、観光目的の訪日外国人宿泊客は日本人宿泊客の約3倍、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）前の2019年でも1.4倍の消費額となっている。
- ・2021年度の都道府県別観光予算では2019年度と比べて増額している自治体が岡山県も含め27あり、コロナ禍においても依然として観光が重要項目であると考えられている。

#### II DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第3回 新型コロナ影響度 特別調査）

##### ・アフターコロナ

回答者の約9割が新型コロナの流行収束後、海外観光旅行をしたいと回答。検討再開は、「渡航希望先の安全宣言後」等。今後行きたい海外旅行先では「日本」を挙げた人が6割弱。次の海外観光旅行時には「日数」、「費用」は増加と回答する人が多く、新型コロナの流行収束後の反動増も見込める結果となった。

##### ・岡山の認知度、訪問意欲

「岡山」について、「知っている」と回答した人は13.6%（前年12.6%）、「行ってみたい」と回答した人は3.6%（前年3.1%）。どちらも微増に留まっており、改善の余地がある。

##### ・訪日経験者全体、岡山訪問経験者

年齢層の違いは見られなかったが、国・地域割合では岡山訪問経験者の「台湾」、「香港」の割合が高く、2地域で5割を占めた。また、訪日回数は訪日経験者全体が「1回」との回答が多かったのに対し、岡山訪問経験者は「6回以上」が半数以上となっており、訪日リピーターが中心である。

##### ・訪日希望者全体、岡山訪問希望者

「日数」、「予算」は増加になると回答した割合が高く、求める宿泊施設については、アジア全体の7割が「温泉のある日本旅館」、欧米豪全体の5割が「豪華で快適なホテル」を希望。日本に訪れた時に体験したいことは、桜や自然や風景の観賞・見物が挙げられた。訪日旅行希望者のうち「サステナブルな取り組みを重視する・どちらかと言えば重視する」と回答した人が8割弱となった。理由としては「環境資源の保全等への配慮」等。宿泊施設に求めるサステナブルな取り組みについては「省エネ・節電」等が挙げられ、実施したい取り組みでは「ゴミ分別・削減」「現地産やオーガニック食材を使った食事」となった。

#### III おわりに

今後のインバウンド観光における取り組みは、岡山の魅力を、誰に、どのように情報発信するか、国・地域の状況に応じた取り組みが必要である。その方向性の一つとして、サステナブルな取り組みを重視する旅行者に「ストーリー性の高いサステナブル体験価値の提供」が考えられる。岡山はすでにそのポテンシャルを持ち合わせており、環境に配慮した地域の自然や文化のストーリーと観光を絡めて発信することで、岡山への訪問意欲向上に繋げていきたい。

## 目次

### I 全国・岡山の動向

1. 訪日外国人客数推移 .....	1
2. 宿泊 .....	1
3. 消費額.....	2
4. 都道府県別観光予算 .....	3

### II 外国人海外旅行経験者の意向調査

1. 調査の概要 .....	4
2. アフターコロナ .....	5-8
3. 岡山の認知度・訪問意欲.....	9-11
4. 訪日経験者全体・岡山訪問経験者.....	12-13
5. 訪日希望者全体・岡山訪問希望者.....	14-20

### III おわりに

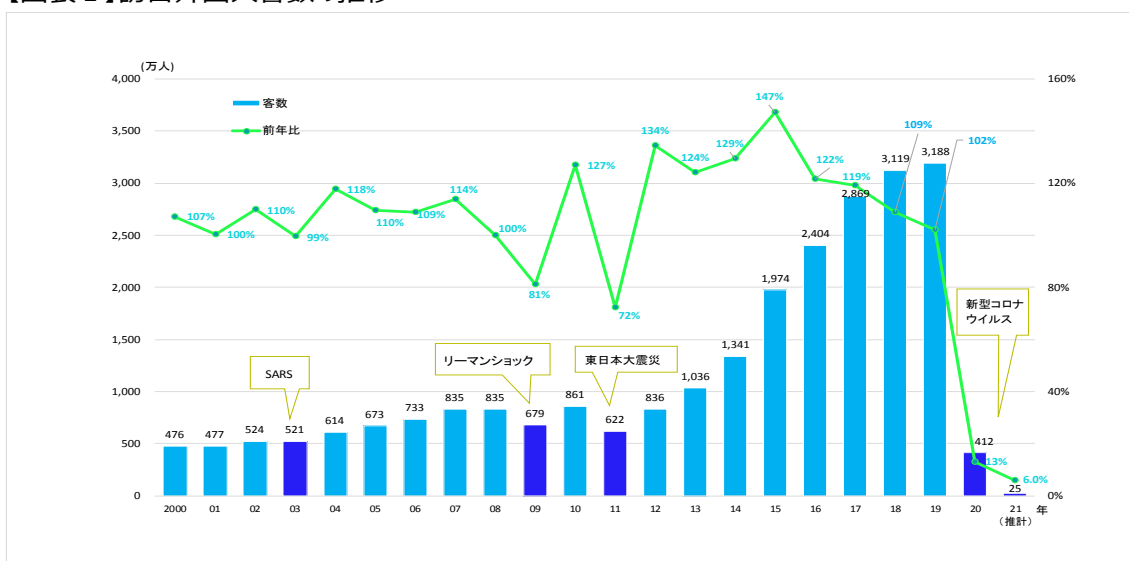
1. 調査結果を踏まえたインバウンド観光客のニーズ再整理 .....	21
2. 岡山が有するポテンシャルと一つの方向性 .....	22-23

# I 全国・岡山の動向

## 1. 訪日外国人客数推移

日本政府観光局（JNTO）の統計によると2021年に全国を訪れた訪日外国人客数は25万人となった。これは前年度比94%減、新型コロナ前の2019年と比べると99%減となった。2020年から続く新型コロナの水際対策とされる入国制限、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の無観客開催等が要因として挙げられる。2022年はオミクロン株による感染再拡大があり、引き続き水際対策がなされている。

【図表1】訪日外国人客数の推移

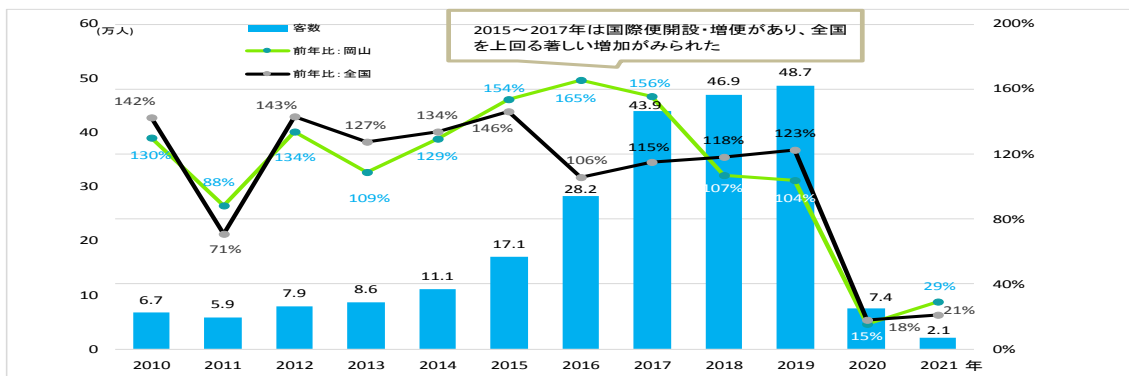


出所：JNTO「訪日外客統計」

## 2. 宿泊

岡山県の外国人延べ宿泊者数は、東日本大震災の後2012年以降順調に増加しており2019年までは毎年前年比増であったが、2020年は前年比85%減、2021年は前年比71%減となり、低い水準が続いている。

【図表2】岡山県の外国人延べ宿泊者数の推移

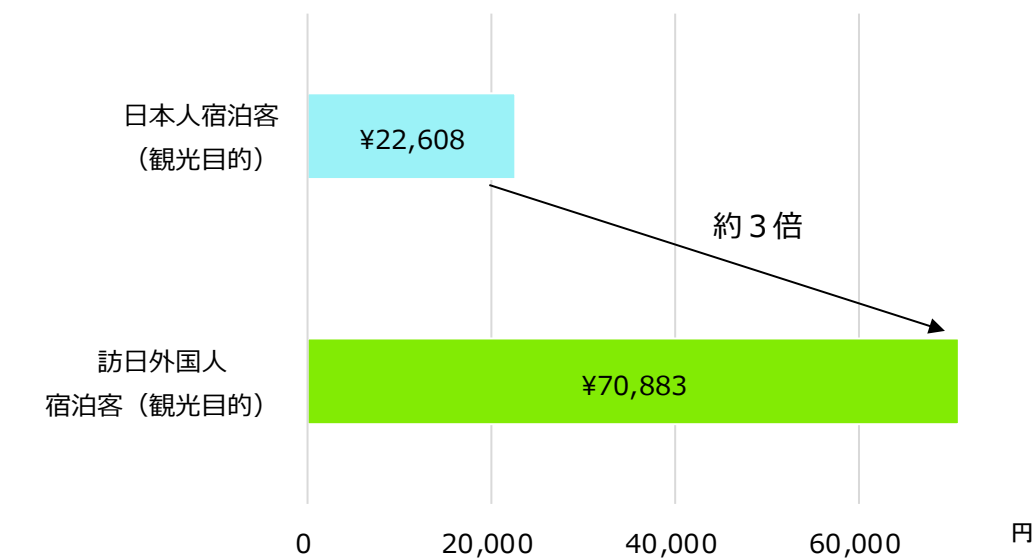


出所：観光庁「宿泊旅行統計」

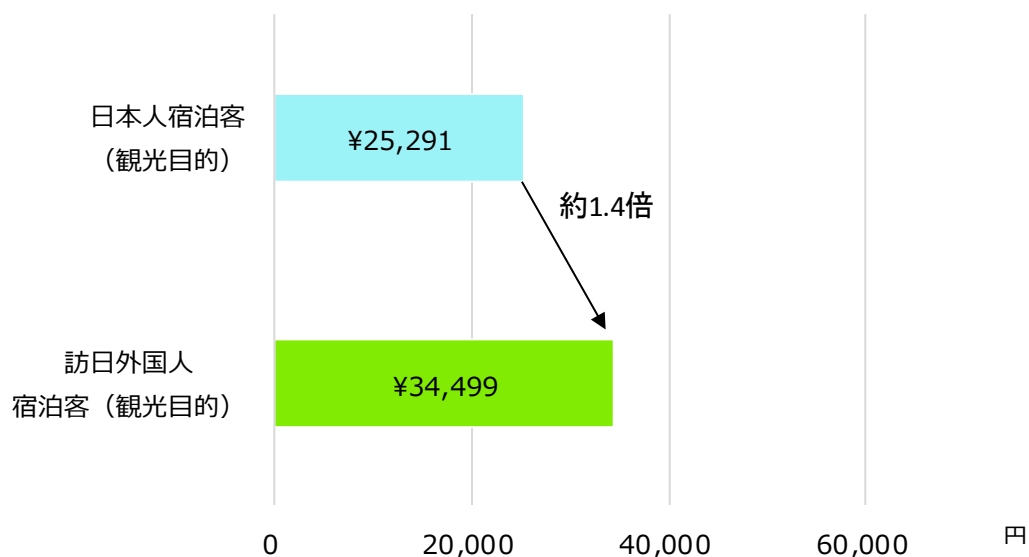
### 3. 消費額

岡山県における宿泊客の観光消費額単価は、訪日外国人宿泊客が 70,883 円であり、日本人宿泊客（22,608 円）の 3 倍の消費額となった。2020 年のコロナ禍の中における調査ではあるものの、コロナ禍以前の調査である 2019 年においても訪日外国人宿泊者が多く消費していることが確認できる。

【図表 3】岡山県観光消費額単価（2020 年）



〈参考〉2019 年



出所：観光庁「共通基準による観光入込客統計」

#### 4. 都道府県別観光予算

2021年度の都道府県別観光予算では、岡山県の観光予算額は都道府県中37番目となった。自治体による計上の違いがあることや、国内外を問わない観光予算のため注意深く読み解く必要があるものの、2019・2021年度対比では観光ファンドを創設した石川県を筆頭に、27の自治体で増加。コロナ渦の中においても積極的に力を入れている自治体が多いことが確認された。岡山県における観光予算額も水準は高くないものの増額となっており安定した予算であることがうかがえる。

【図表4】都道府県別観光予算対比表

(単位:億円)

2019年度			2021年度		
1	東京都	191.6	1	東京都	169.0
2	高知県	63.2	2	石川県	164.8
3	沖縄県	45.4	3	福井県	103.7
4	岐阜県	43.6	4	北海道	76.5
5	京都府	43.3	5	沖縄県	40.0
6	福井県	32.1	6	京都府	38.2
7	青森県	21.4	7	山梨県	34.0
8	福島県	21.3	8	静岡県	31.1
9	静岡県	20.7	9	奈良県	29.0
10	熊本県	19.6	10	高知県	25.7
11	鹿児島県	18.2	11	長崎県	25.2
12	大阪府	17.2	12	福島県	24.6
13	鳥取県	16.6	13	鹿児島県	19.1
14	新潟県	16.6	14	三重県	18.9
15	宮城県	15.6	15	青森県	18.8
16	茨城県	15.2	16	富山県	18.3
17	奈良県	13.1	17	新潟県	17.9
18	徳島県	12.8	18	大阪府	17.4
19	佐賀県	12.5	19	滋賀県	17.3
20	富山県	12.0	20	兵庫県	17.0
21	山形県	11.9	21	福岡県	15.4
22	島根県	11.0	22	茨城県	15.2
23	北海道	10.7	23	徳島県	14.3
24	長崎県	10.4	24	岐阜県	14.2
25	千葉県	10.1	25	鳥取県	14.2
26	兵庫県	9.7	26	宮崎県	12.6
27	岩手県	9.3	27	島根県	12.4
28	香川県	9.2	28	広島県	12.4
29	石川県	9.1	29	佐賀県	11.2
30	愛媛県	9.0	30	愛知県	10.6
31	広島県	8.5	31	熊本県	10.2
32	宮崎県	7.3	32	香川県	9.6
33	秋田県	7.1	33	千葉県	7.8
34	滋賀県	6.8	34	長野県	7.4
35	和歌山県	6.8	35	山形県	6.7
36	山梨県	6.2	36	和歌山県	6.3
37	岡山県	5.8	37	岡山県	6.2
38	長野県	5.7	38	宮城県	5.6
39	山口県	5.6	39	大分県	5.6
40	愛知県	5.6	40	愛媛県	5.5
41	群馬県	5.4	41	栃木県	5.2
42	大分県	5.1	42	群馬県	4.9
43	神奈川県	4.9	43	神奈川県	4.6
44	三重県	4.6	44	山口県	4.1
45	栃木県	4.2	45	岩手県	3.9
46	埼玉県	3.2	46	埼玉県	3.4
47	福岡県	3.1	47	秋田県	3.0

出所：(株)観光経済新聞「都道府県観光予算アンケート」

(注) 国の補助金等を充てた事業の予算額を含める

各自治体によって予算計上に違いがあるため、都道府県間・年度の比較には注意が必要

## II DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 (第3回 新型コロナ影響度 特別調査)

### 1. 調査の概要

当行では、(公財)日本交通公社と共同で、2021年10月5～19日にかけてアジア（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）および欧米豪（イギリス、フランス、アメリカ、オーストラリア）に居住する海外旅行経験者を対象としたアンケート調査を実施した。

本アンケートの調査要領は以下のとおりである。

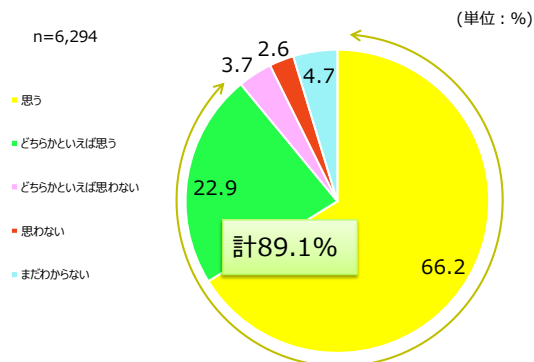
- ・調査方法  
インターネットによる調査
- ・調査時期  
2021年10月5日～19日
- ・調査地域  
韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、  
アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの12地域  
(注) 中国は北京および上海在住者のみ（割合は北京50%、上海50%）
- ・調査対象者  
20～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者  
(注) 中国-香港-マカオ間、マレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間、  
アメリカ-カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム間、オーストラリア-ニュージーランド間、イギリス・フランス-欧州各国間の旅行については、海外旅行経験から除く
- ・有効回答者数  
上記各地域に居住する住民計6,294人  
有効回答者のうち訪日経験者数は2,931人であり、うち岡山訪問経験者は110人である
- ・協力実査会社  
楽天インサイト株式会社

## 2. アフターコロナ

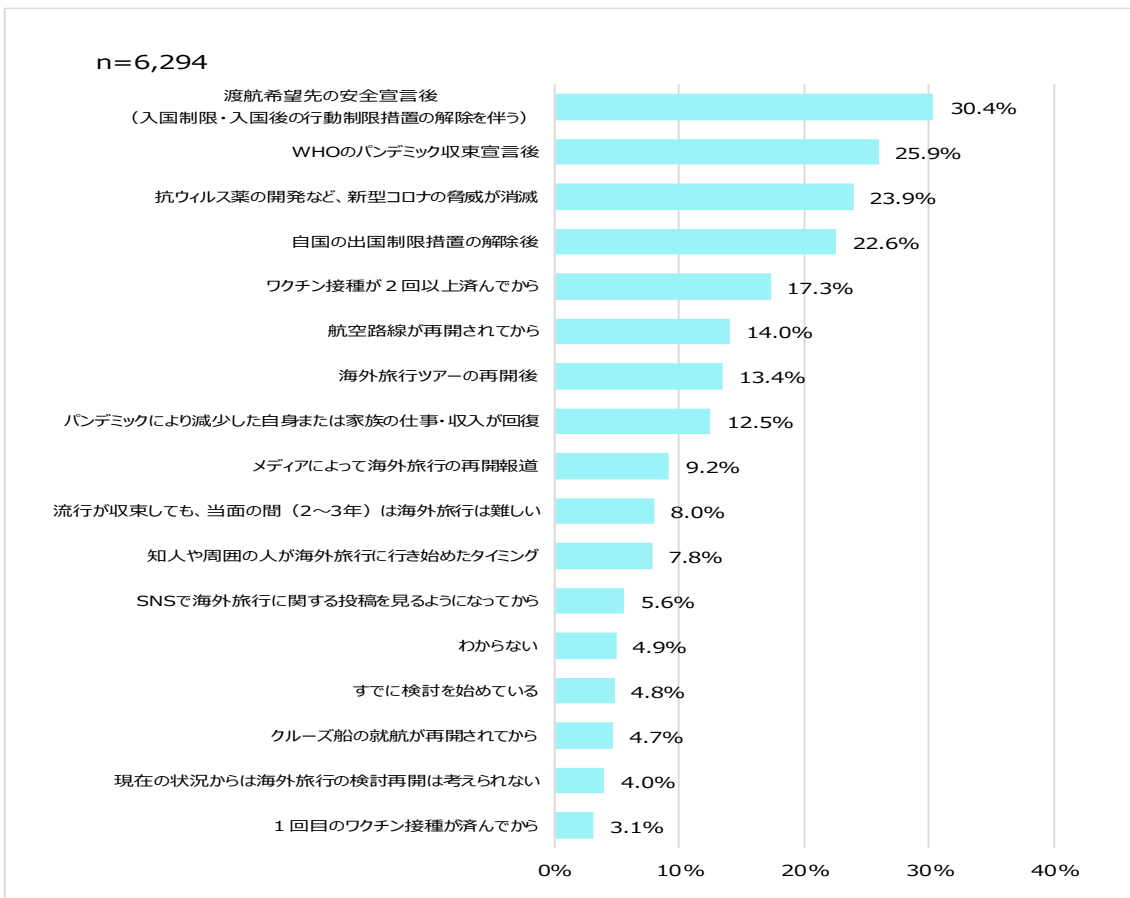
新型コロナの収束後、再び海外観光旅行をしたいと「思う」、「どちらかといえば思う」の合計は89.1%。約9割が海外観光旅行を希望している。

海外観光旅行検討再開のタイミングとしては「渡航希望先の安全宣言後」、「WHOのパンデミック終息宣言後」等が挙げられた。

【図表5】新型コロナの流行が収束したら海外観光旅行をしたいか



【図表6】海外観光旅行検討再開のタイミング



今後行きたい海外観光旅行先について、日本は回答者全体の6割弱に選択され、最も観光したい国となった。国・地域別に見ると、香港で83.3%、台湾で78.5%の人が日本観光を希望している等、アジアからは総じて高い評価となっている。一方で欧米豪では4割に満たず、アジアに比べると日本や他の特定の国・地域に対する強い訪問意欲は見られなかった。

【図表7】観光したい国・地域

(単位：%)

回答者→	全体		中国		台湾		香港		韓国		タイ		インドネシア		マレーシア		シンガポール	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
↓旅行したい国	5,692	5,901	493	521	461	494	459	491	487	492	471	484	504	492	477	494	487	466
n																		
日本	57.3	57.1	72.4	69.1	74.6	78.5	83.4	83.3	34.7	33.5	77.5	75.8	68.3	69.5	64.4	63.8	65.3	65.5
韓国	31.6	32.2	34.7	38.0	33.4	34.0	41.0	43.2	-	-	48.2	50.6	48.6	44.5	45.3	46.0	43.1	45.3
オーストラリア	26.9	27.2	16.8	25.7	17.6	14.4	25.1	27.9	26.9	27.2	18.0	21.9	28.4	28.5	36.5	34.4	38.4	33.9
タイ	23.5	23.9	31.4	28.0	20.8	21.3	35.7	39.1	13.6	16.7	-	-	21.6	21.7	-	-	32.9	31.1
ニュージーランド	24.1	23.3	24.5	25.9	21.9	21.1	13.7	12.0	24.2	21.7	21.4	22.9	18.7	19.3	37.9	32.6	35.1	34.3
台湾	21.5	20.9	14.4	16.1	-	-	56.2	56.8	20.5	17.9	25.1	20.5	10.3	8.1	34.8	34.4	48.9	46.1
シンガポール	20.8	20.2	27.6	31.5	15.0	19.2	17.2	15.3	19.1	22.2	29.3	22.5	40.3	38.4	-	-	-	-
アメリカ	18.9	20.0	9.9	15.4	20.2	22.5	10.2	9.4	17.2	14.8	7.9	17.8	14.1	16.3	10.1	11.5	12.3	15.2
スイス	18.9	17.9	16.6	18.4	20.2	18.4	13.3	11.0	23.6	25.0	23.8	23.8	17.3	17.3	21.8	21.3	17.0	16.1
イギリス	16.5	17.7	10.5	13.6	15.2	15.4	16.6	20.2	16.0	12.4	16.6	19.4	17.3	18.5	14.0	14.0	12.3	13.9

回答者→	イギリス		アメリカ		フランス		オーストラリア	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
↓旅行したい国	479	488	448	497	464	503	462	479
n								
日本	35.7	37.1	30.6	39.2	40.3	35.0	38.7	35.3
韓国	13.2	11.9	12.1	15.7	11.6	9.9	14.1	15.9
オーストラリア	30.1	28.1	29.9	33.0	27.6	24.5	-	-
タイ	20.0	21.3	17.2	13.5	22.0	26.8	19.0	19.8
ニュージーランド	26.3	25.0	22.3	23.7	17.7	18.1	-	-
台湾	5.2	6.8	8.3	8.9	5.2	6.6	7.6	9.6
シンガポール	14.4	13.3	12.5	10.7	9.1	7.2	21.0	21.1
アメリカ	39.9	33.2	-	-	39.7	38.4	27.1	25.7
スイス	-	-	18.5	16.9	-	-	17.1	11.1
イギリス	-	-	24.3	25.8	-	-	23.2	23.8

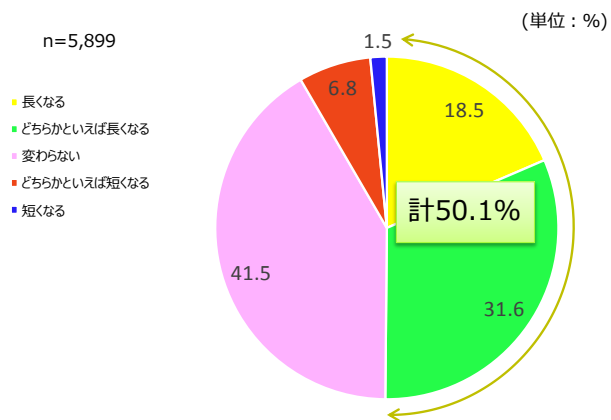
(注) 旅行したい国は31の選択肢のうち、回答の多い上位10国・地域

回答者全体、回答各国・地域の上位2国・地域を黄色でめりつぶしている

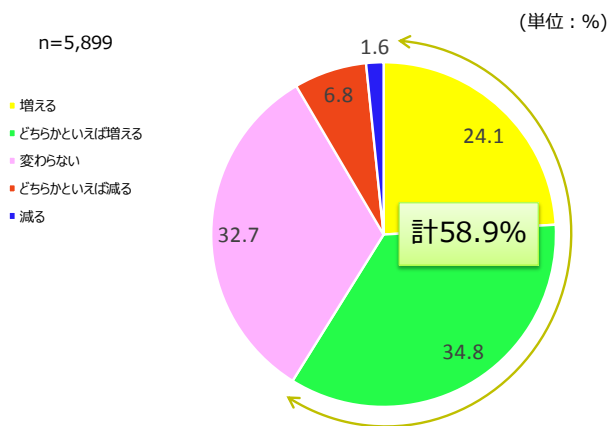
観光したい国・地域と回答者の国・地域が同じ、または近隣の場合、回答はサンプルから除いている

次の海外観光旅行時の「滞在日数」、「旅行予算」の変化を尋ねたところ、滞在日数では50.1%の人が「長くなる」、「どちらかといえば長くなる」と回答。予算について58.9%の人が「増える」、「どちらかといえば増える」と回答している。新型コロナにより長期間海外旅行に行くことができなかったことから、新型コロナ収束後の反動増も見込める結果となった。

【図表8】滞在日数の変化

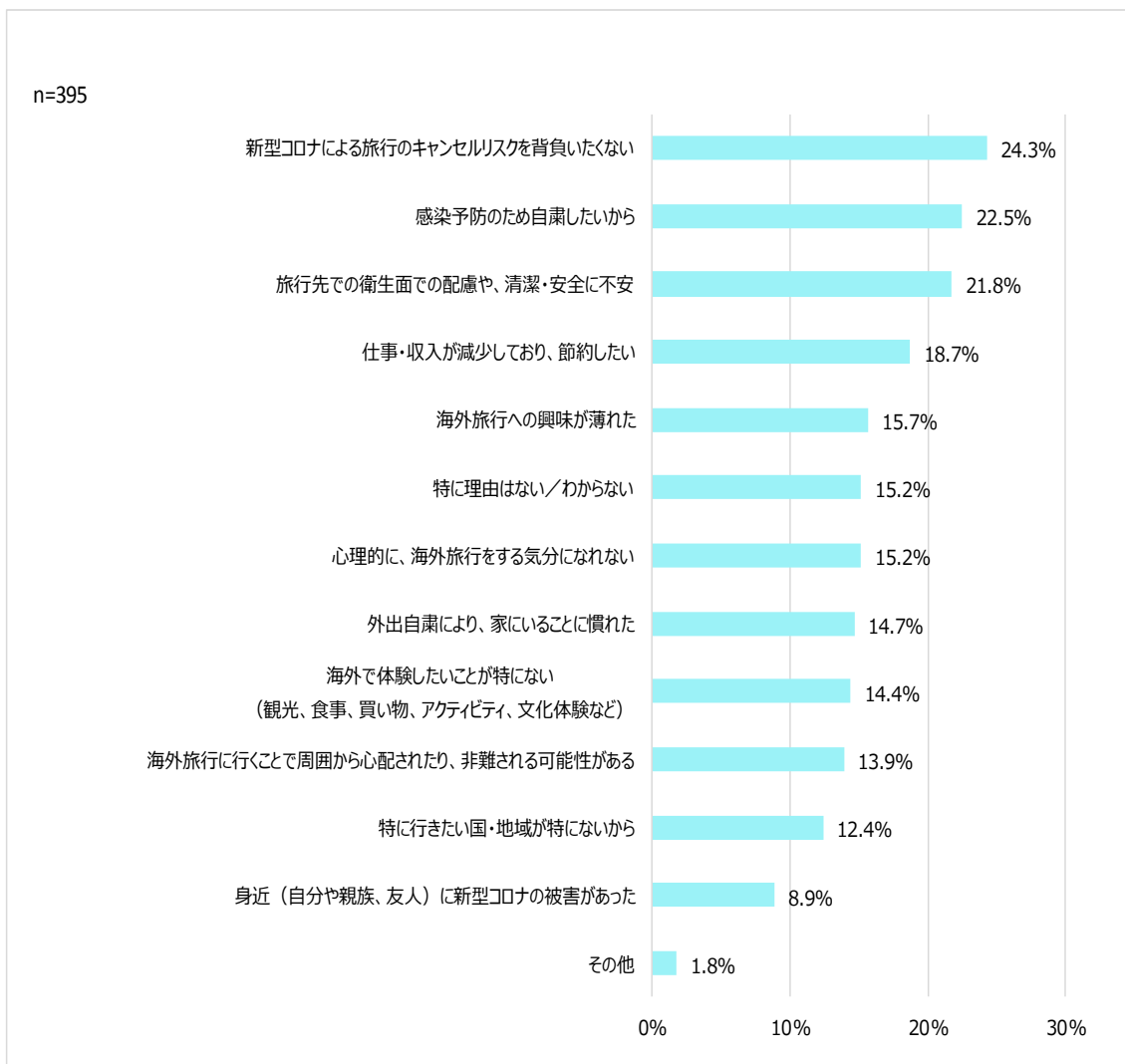


【図表9】予算の変化



新型コロナが収束しても海外観光旅行をしたいと「思わない」、「どちらかといえば思わない」と回答した対象者は、「新型コロナによる旅行のキャンセルリスクを背負いたくない」、「感染予防のため自粛したいから」等の理由で海外観光旅行に消極的になっている。

【図表 10】海外観光旅行をしたくない理由



(注) 図の(n)は、「新型コロナの流行が収束したら海外観光旅行をしたい」「思わない」、「どちらかといえば思わない」を選択した人」のうち、質問に回答した人数

### 3. 岡山の認知度・訪問意欲

岡山の認知度を国・地域別にみると、岡山を知っていると回答した人は全体で 13.6% (857 人)。これは中国地方では広島(35.8% (2,252 人)) に次ぐ割合となっている。岡山への認知度が高い地域は台湾の 35.5%、香港の 26.5%であった。

観光地の選択肢は 62、うち岡山は 26 番目となった。

【図表 11】認知度

(単位：%)

	全体														
	アジア全体	アジア									欧米全体	欧米			
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	イギリス		アメリカ	フランス	オーストラリア	
n	6,294	4,189	541	521	520	540	519	518	523	507	2,105	522	530	532	521
岡山	13.6	16.3	14.4	35.5	26.5	9.8	10.2	12.9	9.2	11.8	8.3	7.9	7.5	6.6	11.3
広島	35.8	37.9	36.4	53.7	40.6	39.4	29.9	35.5	34.0	33.5	31.5	31.0	32.5	28.0	34.7
山口	11.1	13.0	10.5	15.5	12.3	15.7	11.4	17.0	12.4	9.1	7.3	8.0	10.9	2.3	7.9
鳥取	10.9	15.0	12.0	32.8	30.2	27.4	5.2	3.5	3.8	4.3	2.9	2.5	3.4	1.7	4.0
松江/出雲/石見	6.1	7.8	15.2	14.4	10.2	4.4	6.2	3.7	5.0	3.2	2.7	2.7	2.6	2.1	3.5
高松/香川	8.4	10.4	13.7	18.8	16.5	6.1	7.3	7.7	6.5	6.3	4.5	4.4	6.2	2.6	4.8
(参考) 大阪	52.4	62.8	54.9	79.1	73.8	64.8	55.5	52.5	59.3	62.5	31.9	27.6	29.2	30.1	40.7
(参考) 東京	60.9	67.5	60.6	77.2	71.7	65.7	63.0	67.2	66.9	67.7	47.8	44.1	50.9	44.0	52.2

(注) 上位 2 観光地を黄色でぬりつぶしている

### 〈参考〉2020 年調査

(単位：%)

	全体														
	アジア全体	アジア									欧米全体	欧米			
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	イギリス		アメリカ	フランス	オーストラリア	
n	6,139	4,127	537	500	499	531	516	521	509	514	2,012	506	503	496	507
岡山	12.6	15.4	13.0	34.8	25.9	10.9	9.9	10.2	9.6	9.9	7.0	8.5	5.6	6.3	7.5
広島	35.1	37.7	32.2	53.0	42.3	41.2	35.7	29.8	33.8	34.0	30.0	36.8	24.7	26.0	32.3
山口	10.1	12.1	9.5	12.2	11.2	15.8	11.8	12.9	10.6	12.6	5.9	6.7	5.6	4.4	6.9
鳥取	10.8	14.8	9.5	34.0	28.7	28.4	6.4	2.5	3.1	6.4	2.6	1.4	3.2	3.0	3.0
松江/出雲/石見	5.3	6.7	11.7	14.2	9.6	3.8	6.2	2.3	2.4	3.7	2.5	2.4	2.8	2.0	2.8
高松/香川	7.4	9.2	11.4	19.6	16.4	5.5	5.6	5.4	4.9	5.4	3.7	5.1	2.8	3.0	3.9
(参考) 大阪	52.5	62.3	53.8	80.0	69.9	66.3	54.1	48.8	63.7	63.4	32.2	32.4	23.3	33.3	39.8
(参考) 東京	59.4	65.7	55.1	78.2	71.1	67.6	63.4	55.9	68.6	66.5	46.5	49.0	41.4	43.5	52.1

(注) 上位 2 観光地を黄色でぬりつぶしている

訪問意欲については、岡山を訪問したいと回答した人は全体で 3.6%（210 人）、アジア全体で 4.0%（160 人）、欧米豪全体で 2.8%（50 人）となっている。岡山を認知する人に絞ると訪問意欲がある人は全体で 24.5%、アジア全体で 23.4%、欧米豪全体で 28.6% となった。岡山を知っている人の 3 割弱が岡山訪問を希望している。欧米豪全体の方が高く、特にフランスは、34.2%が訪問意欲を有している。

選択肢 62 観光地のうち岡山は 31 番目となった。

【図表 12】訪問意欲

(単位：%)

	全体	アジア全体									欧米豪全体	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール						
n	5,812	4,036	539	513	513	504	508	492	490	477	1,776	449	458	399	470
岡山	3.6	4.0	5.4	7.0	6.0	0.6	3.0	2.8	2.7	4.0	2.8	2.7	2.8	3.0	2.8
広島	11.3	10.2	9.6	13.8	11.9	5.2	9.8	13.4	10.0	8.0	13.7	14.0	13.5	11.5	15.3
山口	2.6	2.5	2.8	2.3	1.9	2.2	2.6	4.1	1.8	2.5	2.6	3.6	3.7	0.8	2.3
鳥取	2.6	3.2	2.8	4.7	7.2	6.0	2.0	0.6	1.4	1.0	1.0	0.7	1.1	0.3	1.9
松江/出雲/石見	1.7	2.0	3.9	3.3	3.1	0.8	1.8	1.2	0.8	1.0	0.8	0.2	1.1	0.8	1.3
高松/香川	2.5	2.8	4.6	2.9	5.8	1.2	2.2	3.3	0.8	1.3	1.9	2.0	1.7	1.3	2.6
(参考) 大阪	31.1	36.6	31.5	45.8	42.1	30.2	31.9	36.6	37.8	37.5	18.6	14.3	15.1	21.6	23.8
(参考) 東京	43.1	44.5	41.0	47.0	41.3	33.3	43.5	56.5	49.6	44.7	40.0	33.0	43.7	43.1	40.4

(注) 上位 2 観光地を黄色でぬりつぶしている

〈参考〉2020 年調査

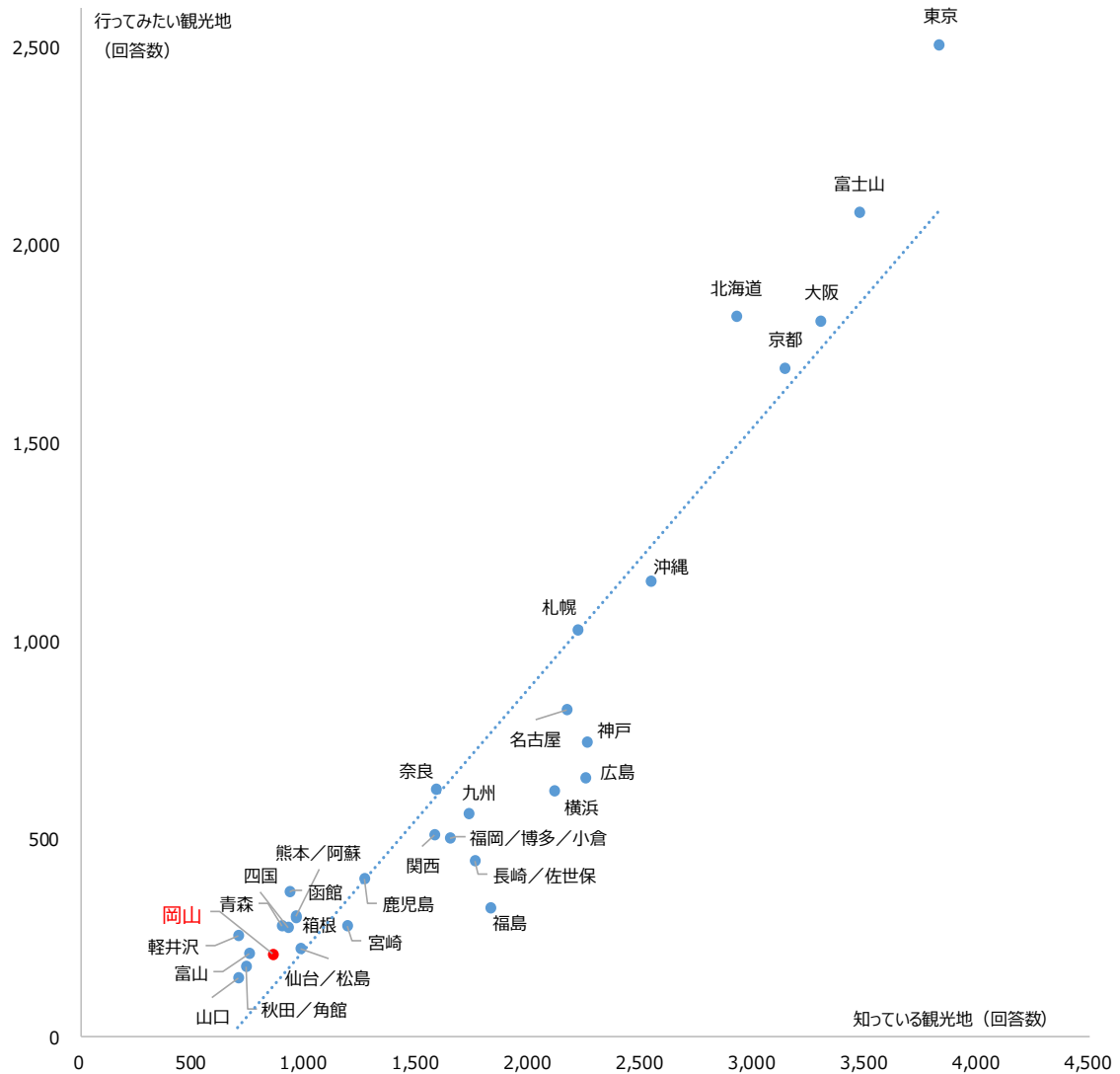
(単位：%)

	全体	アジア全体									欧米豪全体	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール						
n	5,726	3,985	536	491	489	509	507	482	484	487	1,741	443	441	404	453
岡山	3.1	3.3	3.0	6.7	5.3	1.6	3.0	3.3	2.1	1.8	2.5	3.6	1.8	2.0	2.4
広島	10.1	9.4	8.0	11.0	8.4	3.7	12.6	11.6	10.3	9.7	11.9	15.8	8.6	9.4	13.5
山口	2.2	2.5	2.8	1.4	1.6	2.2	3.6	3.7	1.9	2.5	1.6	1.8	0.9	1.2	2.2
鳥取	2.4	3.2	2.1	4.5	6.5	6.3	2.0	0.2	0.8	2.9	0.8	0.0	1.1	2.0	0.2
松江/出雲/石見	1.4	1.7	2.1	3.1	2.5	1.0	2.4	0.8	0.4	1.2	0.7	0.7	0.7	0.5	1.1
高松/香川	1.9	2.2	2.8	3.3	5.1	0.8	1.8	1.2	0.8	1.4	1.4	1.6	1.1	1.5	1.3
(参考) 大阪	29.1	34.0	26.5	42.2	34.2	25.1	32.0	33.6	37.8	41.5	18.2	17.2	14.1	19.3	22.1
(参考) 東京	40.6	41.6	35.4	42.2	38.9	31.8	46.0	45.9	46.7	46.6	38.3	40.0	32.7	39.1	41.5

(注) 上位 2 観光地を黄色でぬりつぶしている

知っている観光地と行ってみたい観光地には相関関係があり、また観光地間の格差が大きく、ゴールデンルート上の観光地が飛び抜けている。一方、岡山はそれほど高くなく、選択肢 62 観光地のうち、26 番目と中間に位置している。

【図表 13】認知度・訪問意欲の散布図



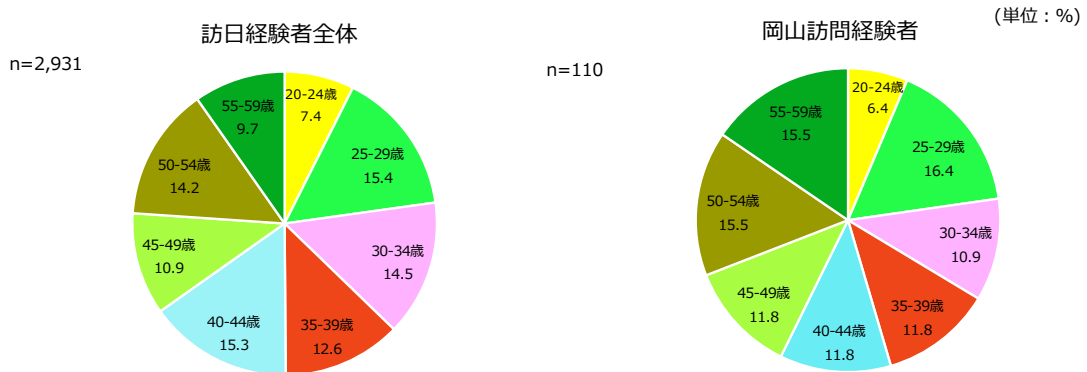
(注) 62 観光地のうち知っていると回答した上位 30 観光地

#### 4. 訪日経験者全体・岡山訪問経験者

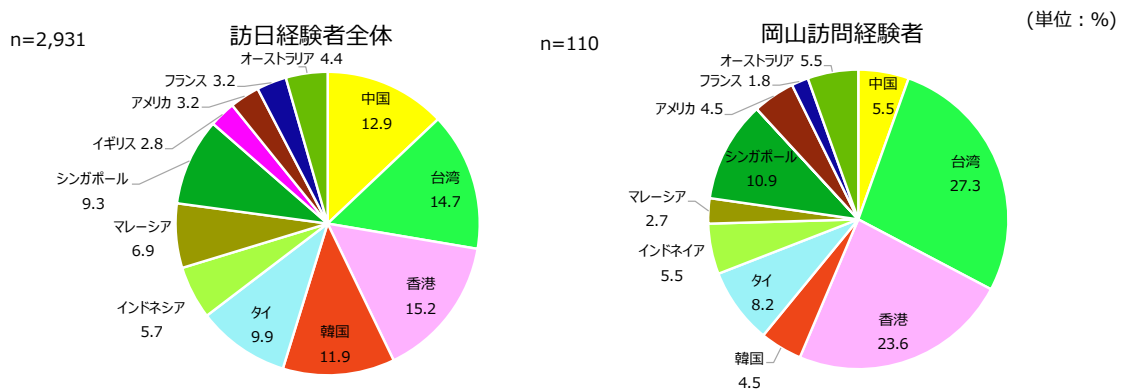
訪日経験者全体と岡山訪問経験者の属性を比べたところ、年齢層にそれほどの違いは見られなかった。

国・地域別割合をみると、岡山訪問経験者は「台湾」、「香港」の割合が高く2地域で5割強を占めている。訪日経験者と比べても「台湾」、「香港」の割合が高いが、直行便のある中国、韓国の割合は低い結果となった。

【図表 14】年齢

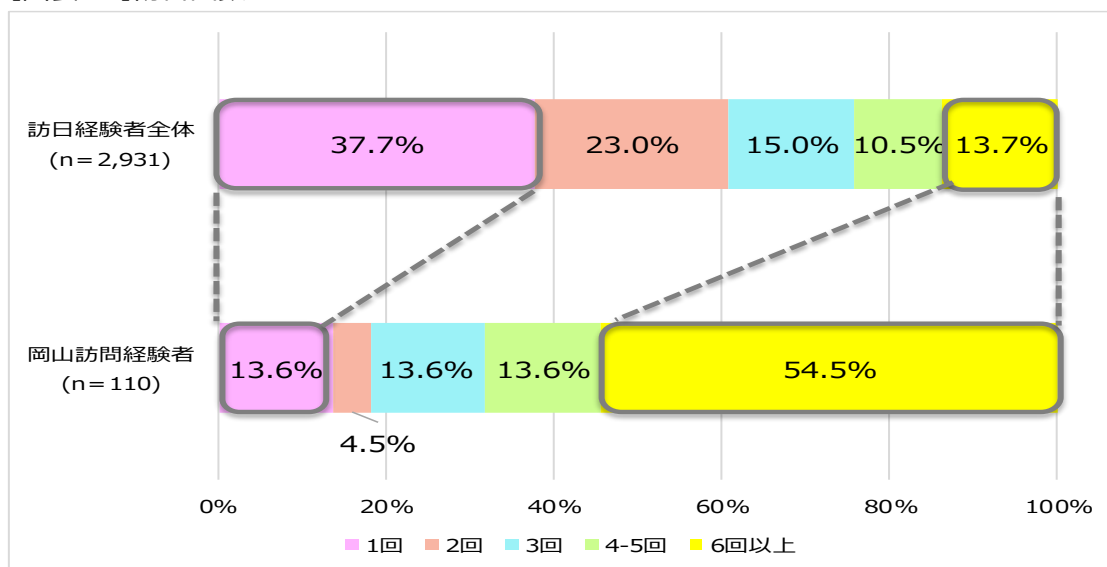


【図表 15】国籍



岡山訪問経験者の訪日回数は「6回以上」が多く、5割強を占めた。一方で、「1回」が13.6%と、訪日経験者全体（37.7%）のおよそ3分の1に留まっている。また、訪日経験者全体では「1回目」と回答する人が多い。このことから、岡山を訪れる外国人旅行者は、訪日旅行をすでに数回経験した訪日リピーターが中心であることが分かる。

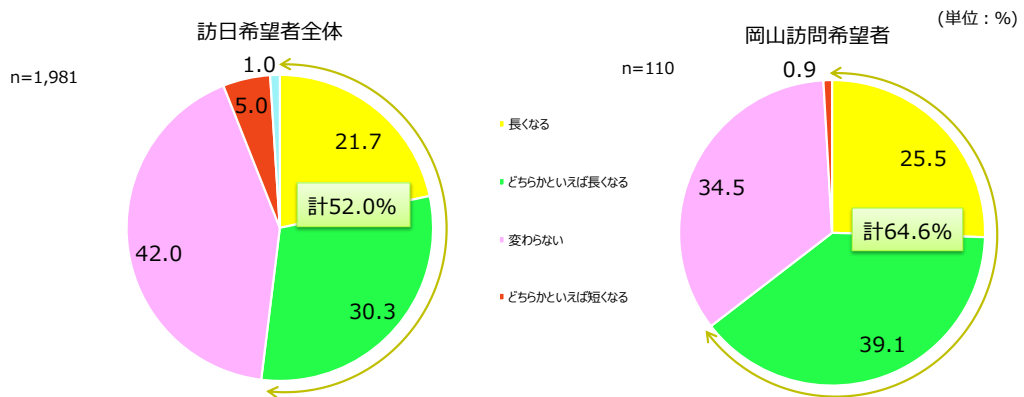
【図表 16】訪日回数



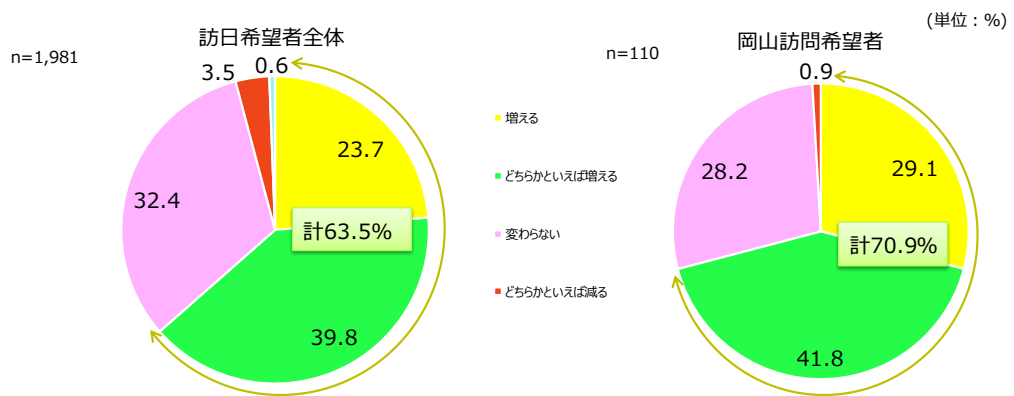
## 5. 訪日希望者全体・岡山訪問希望者

次の訪日旅行時の「滞在日数」、「旅行予算」の変化について尋ねたところ、滞在日数が「長くなる」、「どちらかといえば長くなる」と回答したのは、訪日希望者全体では52.0%、岡山訪問希望者では64.6%となった。また、予算についても、「増える」、「どちらかといえば増える」と回答したのは訪日希望者全体では63.5%、岡山訪問希望者では70.9%となった。

【図表 17】滞在日数の変化



【図表 18】予算の変化



(注) 【図表 17・18】の (n) は、「訪日経験者、かつ次の観光旅行に日本(岡山)を選んだ人」のうち、質問に回答した人数

訪日旅行の際に希望する宿泊施設について、「温泉のある日本旅館」、「豪華で快適なホテル(西洋式)」を希望している人が多い。その一方で、「基本的な設備のみが備わっているホテル(西洋式)」も3割程度おり、宿泊ができれば十分と割り切った人も一定数いる。

【図表 19】宿泊希望施設

(単位：%)

	全体	アジア全体									欧米豪全体				
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア		
														アジア全体	イギリス
n	3,372	2,651	360	388	409	165	367	342	315	305	721	181	195	176	169
温泉のある日本旅館	69.1	74.5	80.6	77.8	76.3	63.0	71.1	82.2	67.3	69.5	49.5	40.9	52.8	48.9	55.6
豪華で快適なホテル(西洋式)	41.0	37.7	53.3	47.2	40.3	43.6	30.0	18.7	24.4	44.6	53.3	53.0	62.6	42.0	54.4
基本的な設備のみが備わっているホテル(西洋式)	31.9	31.3	17.8	29.1	29.8	30.9	46.9	27.8	34.9	34.1	33.8	33.1	31.3	31.8	39.6
日本旅館(温泉なし)	27.1	27.7	40.3	27.8	33.0	17.0	27.2	25.7	23.8	18.4	25.0	24.9	16.9	29.0	30.2
現地の人から有料で借りる家・アパート	21.8	22.9	16.7	14.9	14.7	9.1	29.2	37.7	32.7	24.9	17.8	11.6	14.4	26.7	18.9
ユースホステル・ゲストハウス	15.6	17.2	16.4	11.6	9.5	13.9	22.9	29.2	21.0	13.1	9.7	11.0	7.2	10.2	10.7
親戚・知人宅	4.8	5.1	3.3	3.6	2.0	4.8	6.0	14.6	3.8	2.6	3.7	2.8	5.1	1.7	5.3
その他	0.3	0.3	0.0	0.3	0.2	0.6	0.3	0.0	0.6	0.3	0.6	1.7	0.0	0.6	0.0

訪日希望者全体に、今後海外観光旅行の訪問先や宿泊先を検討する際にサステナブル<sup>1</sup>な取り組みを行っていることを重視するか尋ねたところ、全体では 75.9%の人が「重視する」、「どちらかといえば重視する」と回答。国・地域別に見ると特にタイが高い結果となった。

また、サステナブルに関する意識について、所得格差の影響はそれほどないことも確認された。

【図表 20】サステナブルな取り組みを行っていることを重視しますか（国・地域）

（単位：％）

	全体	アジア全体									欧米 全体	イギリス	アメリカ	フランス	オーストラリア
		中国	台湾	香港	韓国	タイ	インドネシア	マレーシア	シンガポール						
n	3,372	2,651	360	388	409	165	367	342	315	305	721	181	195	176	169
重視する	35.5	37.5	46.1	33.8	15.4	26.7	74.1	44.7	30.8	22.0	28.4	27.1	30.3	31.3	24.9
どちらかといえば重視する	40.4	41.2	46.1	45.1	48.7	41.2	20.7	45.3	47.0	34.1	37.6	33.7	35.4	46.6	34.9
どちらでもない	20.1	18.1	7.2	19.1	28.1	24.2	3.8	8.5	19.4	39.3	27.7	30.9	25.6	18.8	36.1
どちらかといえば重視しない	2.8	2.7	0.6	1.8	6.4	6.7	1.1	1.2	2.5	3.3	3.2	3.3	5.1	2.3	1.8
全く重視しない	1.1	0.6	0.0	0.3	1.5	1.2	0.3	0.3	0.3	1.3	3.1	5.0	3.6	1.1	2.4

（注）上位 2 項目を黄色でぬりつぶしている

【図表 21】サステナブルな取り組みを行っていることを重視しますか（所得層）

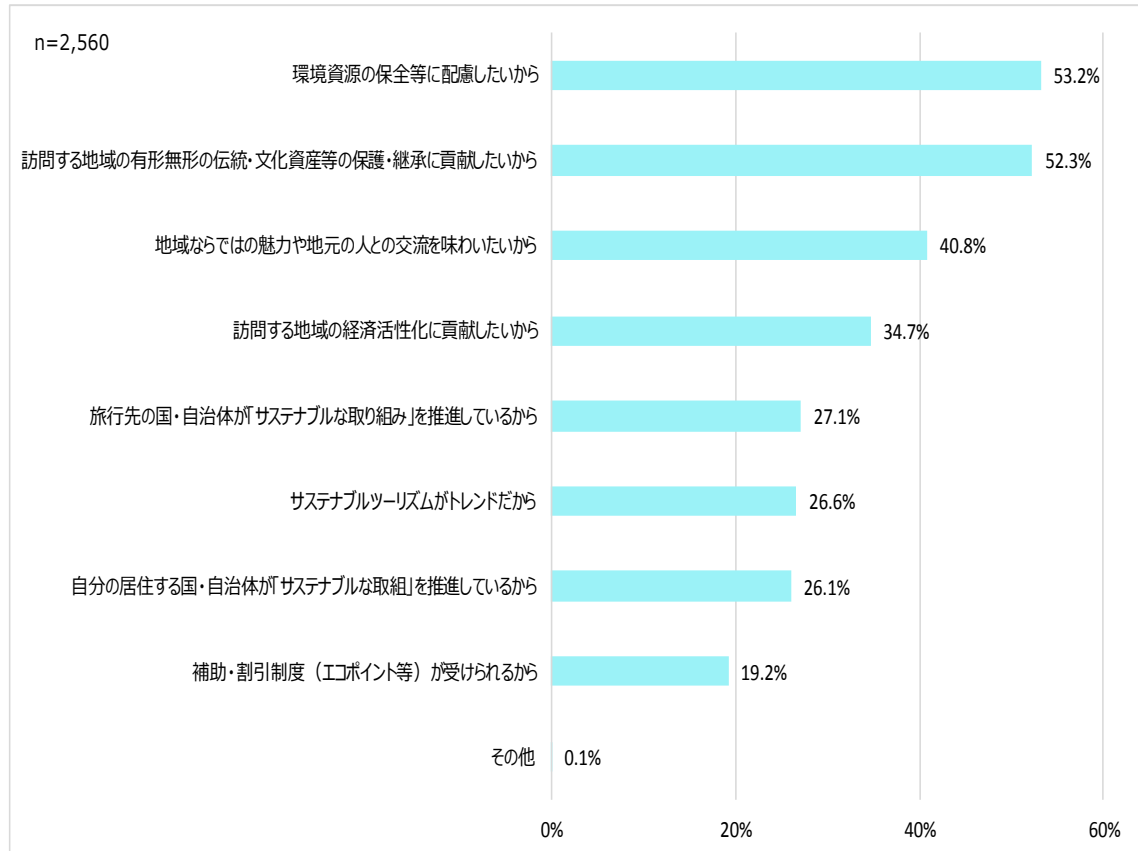
（単位：％）

	全体	収入層		
		低収入者層	中収入者層	高収入者層
n	3,372	990	1,147	1,235
重視する	35.5	33.8	35.7	36.8
どちらかといえば重視する	40.4	38.9	41.2	40.9
どちらでもない	20.1	22.4	19.0	19.4
どちらかといえば重視しない	2.8	3.0	3.3	2.2
全く重視しない	1.1	1.8	0.9	0.8

<sup>1</sup> サステナブル…地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献

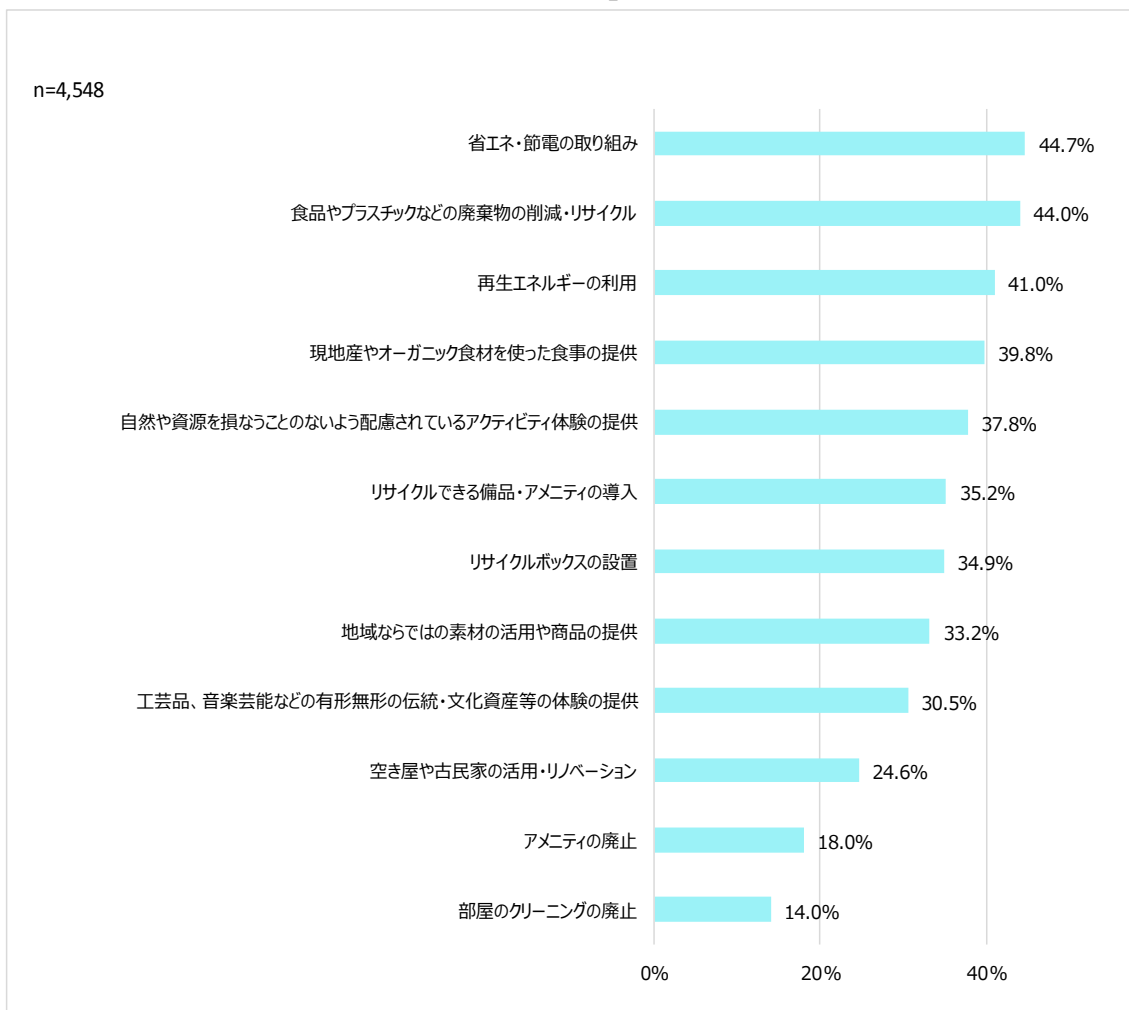
また、「サステナブルな取り組みを重視する」と回答した人の重視する理由について尋ねたところ、「環境資源の保全等に配慮したいから」、「訪問する地域の有形無形の伝統・文化資産等の保護・継承に貢献したいから」等の回答が上位に挙がった。

【図表 22】サステナブルな取り組みを重視する理由



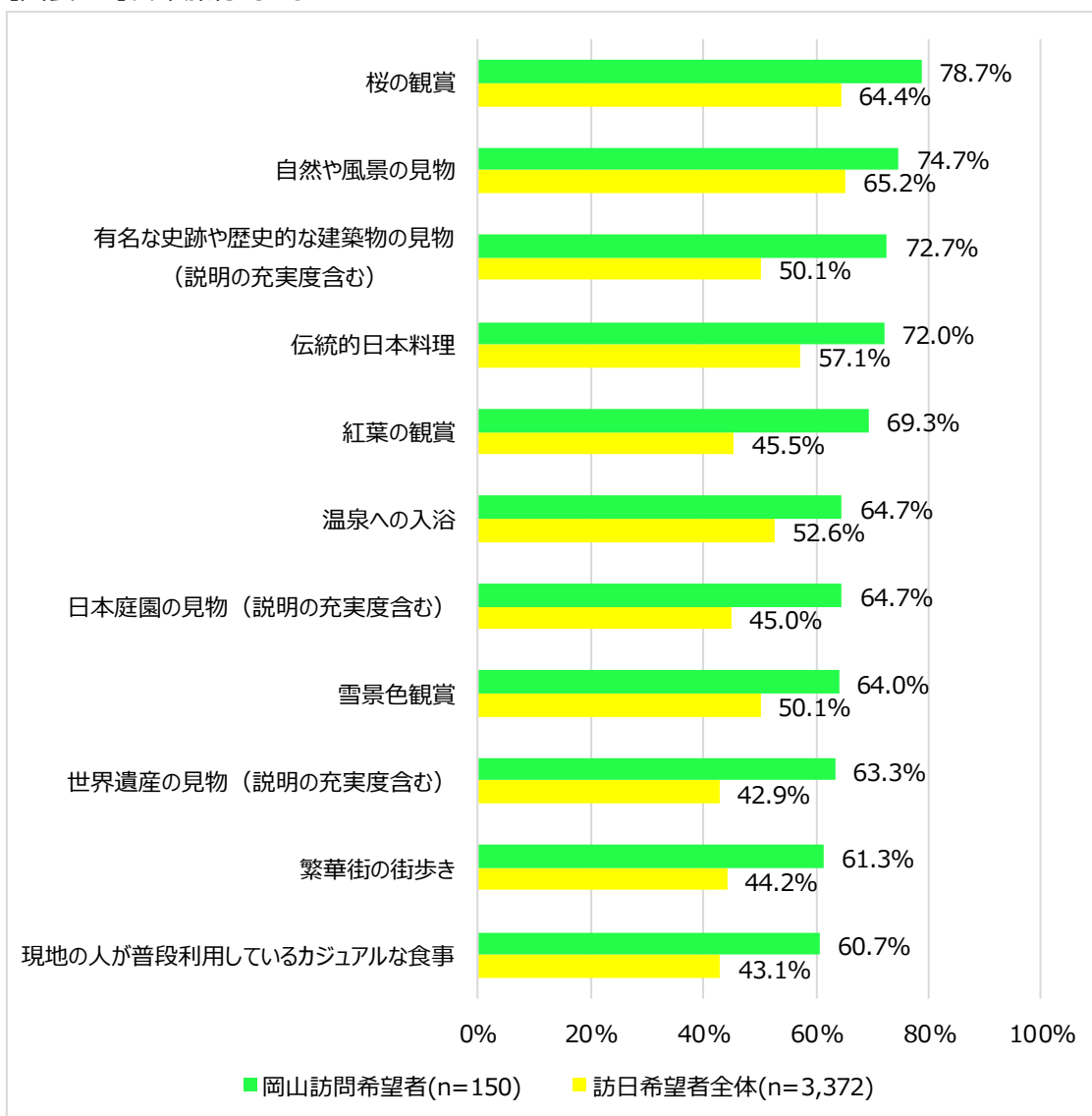
訪日旅行の際に希望する宿泊施設のサステナブルな取り組みについては、半数弱の人が「省エネ・節電の取り組み」、「食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル」を求めている一方で「アメニティの廃止」、「部屋のクリーニングの廃止」は求めてないようである。

【図表 23】宿泊施設に求める「サステナブルな取り組み」



訪日目的については、「自然」、「歴史」、「食事」等の項目が挙げられた。また、訪日希望者全体と岡山訪問希望者を比べると、岡山訪問希望者が全項目で関心が高い結果となった。なお、ショッピングに関する選択肢（ブランド品、食品、化粧品・医薬品等）はいずれも上位に入らなかった。

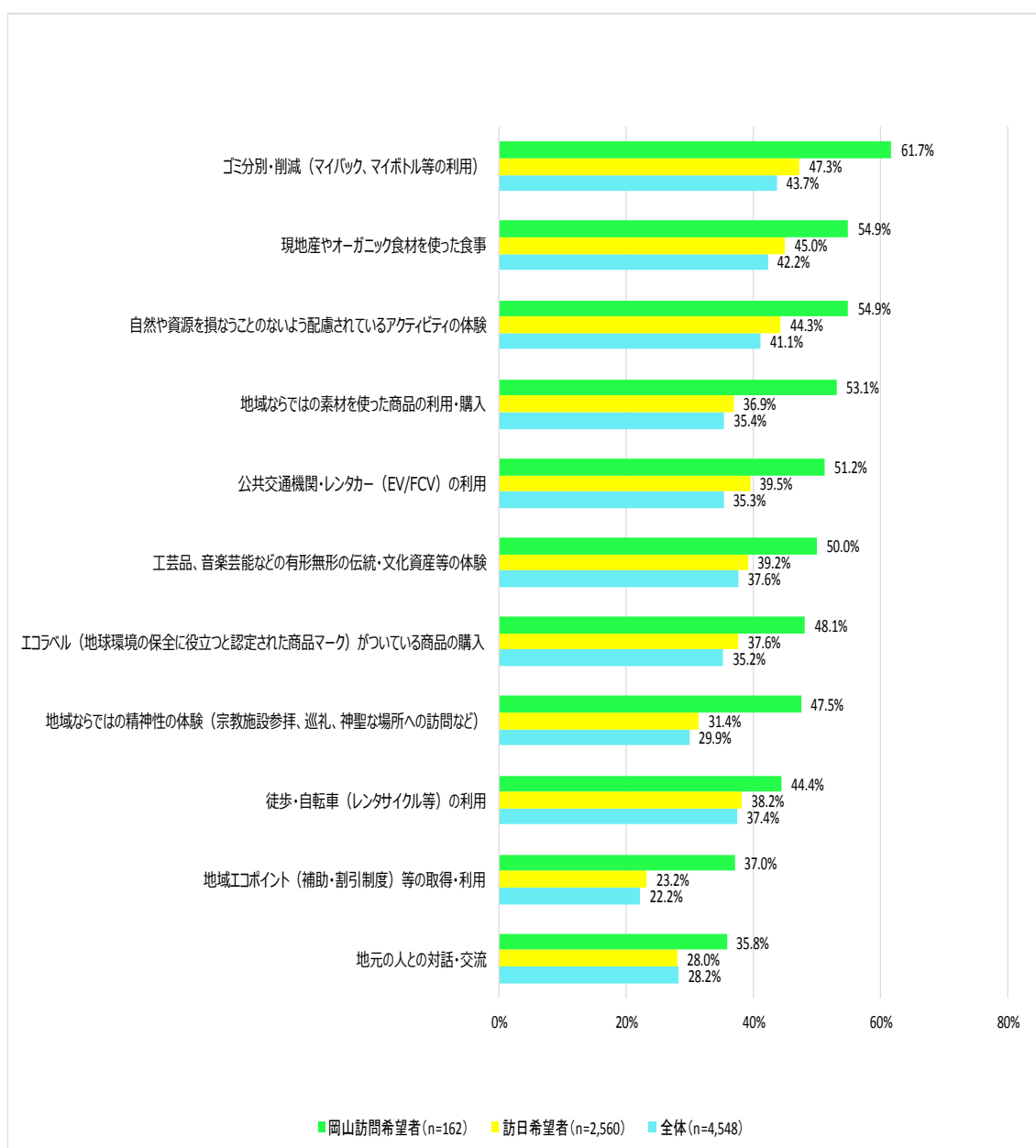
【図表 24】日本旅行時にしたいこと



(注) 35の選択肢のうち、回答の多い各上位10項目を並べたものである

海外旅行先で実施したいサステナブルな取り組みについて、「ゴミ分別・削減」、「現地産やオーガニック食材を使った食事」が挙げられた。岡山訪問希望者と、回答者全体や訪日希望者を比べると、何れの項目も数値が高く、サステナブルへの意識の高さが確認出来た。

【図表 25】海外旅行先で実施したいサステナブルな取り組み



### Ⅲ おわりに

#### 1. 調査結果を踏まえたインバウンド観光客のニーズ再整理

今回の調査によると、新型コロナ収束後の海外観光旅行の意欲は高く、次回の旅行では滞在日数・旅行予算は増加の傾向がみられた。反対に、海外観光旅行をもうしたくないと答えた人には自身の感染によるキャンセルのリスクや感染予防や旅行先での衛生面に対する不安が挙げられ、キャンセル料への補償や衛生面等、不安を払拭するような準備や配慮が必要とされている。これらの今回調査の概観を踏まえ、インバウンド観光客のニーズを再整理することとした。

「岡山の認知度・訪問意欲」の観点では、例年数値に大きな変化はなく、かつ水準として高いとは言えないものの、取り組み次第での向上余地等の伸び代は確かにあると考えられる。認知している人の訪問意欲ではアジアより欧米豪の方が高く、このなかでフランスが3割以上となった。すでに取り組みされるフランス向け観光PR動画配信（仏語で対応）等は、裏付けある有効策として考えられる。岡山訪問経験者の国・地域別割合では、岡山からの直行便がある「台湾」、「香港」の割合が高い。その反面「韓国」、「中国」からの割合が低いことは興味深い。これらから、割合が高い国・地域に対しては満足度の向上策、割合が低い国・地域に対しては認知度・訪問意欲の向上策というデータに裏付けされた選択的な取り組みが有効と考えられる。

「岡山訪問経験者の訪日回数」の観点では、「6回以上」の割合が半数以上にもなることから、日本通な観光客にとって「岡山」の選択を1回でも早いタイミングで取り込めれば効果は大きいはずである。新型コロナにより長期間海外観光旅行に行けなかったことで、次回の旅行では今までより長く、かつ、予算を増やそうと考えている人は多い。訪日旅行の際、ゴールデンルートのみ、もしくは大都市のみの傾向にあった訪日旅行に、滞在日数を長くした人のそれ以外の第二目的地の受け皿を目指すことは現実的な戦略と考えられる。

「訪日希望者全体の宿泊希望施設」の観点では、温泉のある日本旅館や豪華で快適なホテル等の高価格帯の需要の期待が多い一方、基本的な設備のみで良いと回答する人もいる。インバウンド観光振興策において高級路線を追求する論調が散見されるものの、実際には宿泊施設については希望が2極化されており、多様な受入れ施設が求められることに留意を要する。

「日本旅行時にしたいこと」の観点では、日本の自然や食事、文化を求めており、爆買い等の消費行動より体験が重視されている。また、岡山訪問希望者は、訪日希望者全体との比較において何れの項目にも高い関心を示すことが確認された。訪問回数が多く、旅慣れた人の割合が高いと推測される岡山訪問希望者は、すでに日本の利点や特徴を理解していると考えべきである。これら相応のレベルにある満足度を充足するには、一朝一夕な対応では不十分で付け焼き刃の域を出ないため、「岡山」が地域として育んできた「多様性」や「ストーリー」を下地に裏付けある対応が必要である。つまり、「岡山」の魅力を、誰に、どのように情報発信するか、認知度・訪問意欲の向上に繋がるかを国・地域の状況に応じた取り組みである。

## 2. 岡山が有するポテンシャルと一つの方向性

本件調査は継続した定点観測という側面も有するところ、今回は「サステナブル」に関する設問を新設し、「サステナブル」が旅行希望者にどの程度影響するのかについても調査を実施した。

「サステナブル」な観点における今回の調査結果について、以下で順次再整理していきたい。

「サステナブルを意識した今後の訪問先や宿泊先」の観点では、サステナブルへの取り組みを行っていることを「重視する・どちらかといえば重視する」と訪日希望者の8割近くが回答。なお、収入による差異はそれほど認められない一方、国・地域による差異は認められた。総じて訪日希望者がサステナブルな取り組みを旅行先でも求めていることが確認されたものでありSDGsをはじめとした世界的な「サステナブル」気運の高まりが背景とも考えられる。

「サステナブルな取り組みを重視する理由」の観点では、「環境資源の保全等への配慮」、「訪問地域の伝統・文化資産等の保護・継承への貢献」の割合が高かった。上記の気運の高まりを背景に、個人的な趣向以外でも、訪問先においても配慮・貢献が実感できることが旅の満足度向上や旅先の選択理由となりうる可能性を示唆すると考えられる。

さらに、「宿泊施設に求めるサステナブルな取り組み」の観点では、「省エネ・節電の取り組み」、「廃棄物の削減・リサイクル」等が挙がる一方で、「アメニティの廃止」、「部屋のクリーニングの廃止」の割合は低い等特徴的な結果となった。サステナブルやSDGsの概念は、本来、例えばカーボンニュートラルからジェンダー平等など広範囲な概念が含まれるものの、3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動をより身近な取り組みとして想定することが多いと感じる。しかしながら、調査結果からは、サステナブルな取り組みを支持しながらも宿泊時の快適さや便利さ等のホスピタリティは引き続き求めることが確認され、宿泊施設サイドは留意を要すると考えられる。

また、「海外旅行先で実施したい取り組み」の観点では、岡山訪問希望者はいずれの項目においても、回答者全体、訪日希望者より高い回答であり、サステナブルに高い意識を持っていることが確認された。

以上を踏まえ、「岡山」が有するポテンシャルと取り組みの方向性について検討してみたい。

「岡山」のサステナブルな観点での立ち位置を再確認すれば、SDGsについて、岡山経済同友会の経済界から早期に提言が出され、現在では学校教育でのSDGs普及まで活動範囲となるに至っている。また、自治体については、岡山市、倉敷市、真庭市、西粟倉村の4地域が「SDGs未来都市（※内閣府により認定）」に選定される等、他地域との比較でも、その積極性が確認されるものである。総括すれば、産・官・学・金・言・民の連携が進み、検討・実証段階から、具体的な取り組みの実装段階に移行しつつあることから、「岡山」は「サステナブル取り組みの先進的地域」と捉えられる。

上記の立ち位置を踏まえ、今後の取り組みの方向性について検討すれば、「真庭市」×「森林」の取り組みは一つのモデルケースと考えられる。SDGs未来都市でもある真庭市は、サステナブルの価値を発信する施設として2021年に「GREENable HIRUZEN（グリーンブルヒルゼ

ン) 」をオープンした。隈研吾氏監修の東京 2020 オリンピック・パラリンピック向けの「CLT PARK HARUMI (CLT パークハルミ)」の移築(里帰り)としても注目された本件施設は、森林資源を有効活用した CLT (直交集成板) 製法によるランドマークとなるパビリオンであり、“GREENable”の想いを具現化する蒜山の新たな観光文化発信拠点施設として位置付けられる。なお、自然や文化資源を活かしたアクティビティーの提供、自然素材を生かした商品によるサステナブルな生活を提案するショップ等も併設される。重要なのは、集成材の産地(現在は CLT に積極取り組み)、バイオマス発電の地産地消型エネルギーシステム構築の真庭市や地場の企業が培ってきた一連の取り組み(ストーリー)があり、今次の対外発信強化の取り組みがあるということである。

他方、今回調査ではサステナブルな設問の深度に限界もあったことは否めないものの、一連の回答傾向から推察するに、インバウンド観光客に対する訴求力は「ストーリー性の高いサステナブルな体験価値の提供」にあると考えられる。

以上を踏まえれば、これらの要素の両立こそが肝要と考えられる。地域の環境資源の保全を行いながら自然豊かな環境を提供する、サステナブルを意識する旅行者はそのようなストーリーに惹きつけられるのではないだろうか。勿論、そのストーリーを届ける・伝える機能も重要である。岡山はすでにそのポテンシャルを持ち合わせていることから、新型コロナの流行収束後、ゆっくりと自然に触れたいと希望する訪日旅行希望者に、環境に配慮した地域の自然や文化のストーリーと観光を絡めて発信することで、岡山への訪問意欲向上に繋げていきたい。

## GREENable HIRUZEN

### ■ CLT パビリオン「風の葉」



### ■ 蒜山ミュージアム



出所：Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office



©Development Bank of Japan Inc.2022

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

〈お問い合わせ先〉

株式会社日本政策投資銀行 岡山事務所（担当：多治見）  
〒700-0821 岡山市北区中山下 1-8-45 N T Tクレド岡山ビル  
TEL：086-227-4311 FAX：086-221-2504